

日々、不安定な状況が続いていますが、みなさんの健康状態はバッチリですか？子どもたちを守ることもできるのも自分が健康であることが大前提です。休むときは休み、働くときは働くメリハリある生活を心掛けていかななくてはな～と自分に言い聞かしている樋口です。(とか書いている間に5月中の休校が決まってしまいました)

さて、みなさんにも四日市市新教育プログラムのリーフレットをお渡ししました。また教頭先生からも「四日市市新教育プログラムの説明動画」をメールで転送していただきました。みなさんどちらかは1度ご覧になられましたか？

新教育プログラムでは、これから到来すると言われる¹超スマート社会(Society5.0)に向けて、子どもたちが未来社会を切り拓くために必要な資質・能力を育成していくために**就学前～小学校～中学校の期間において一貫性と連続性をテーマに(学びの一体化)6つの柱で整理したことが説明されており、その6つの柱から育成する重要な能力として、「言語能力」「問題解決能力」「情報活用能力」の3つが挙げられています。**

今回は「四日市市新教育プログラム」の主旨を踏まえながら、本校の児童と繋げてお話をしたいと思います。第1弾は「柱1 読む・話す・伝えるプログラム」についてです。(休校中にはすべての柱について伝えられるように頑張ります～♪)

柱
1読む・話す・伝える
プログラム

読解力向上について重点的に指導するとともに、読む・話す・書くといった活動を通して、学校教育活動全体で言語活動の充実を図る。それにより、「**文章を正確に理解し、適切に表現する資質・能力**」を育成します。

この柱1では、主に**読解力・表現力の育成**を目指しています。

就学前遊びや生活の中で会話を楽しみ、絵本の読み聞かせを見たり聞いたりすることで、豊かな感性や表現力の素地を養うことが中心になり、低学年では自ら、中学年では目的を意識しながら、高学年では目的に応じて、中学校では文章を評価して読むことで表現力を育成していくことが系統的に示されています。

本校児童の課題「読解力」「言語力」とも大きく関係する柱であると私は考えています。特に「言語力」はすべての**思考活動(読む・聞く・話す(伝える)・書く)の土台**となる部分です。この力がないと真の読解力は育めません。

今後市からも示される【読解力を育む「20の観点」】なども活用しながらしっかりと土台を培えるようにしていきたいですね。

これからのみなさんの授業実践も交流しながら、河原田小の子どもたちの言語能力をみんなで育んでいきましょう～！

(文責：樋口)



¹ 超スマート社会…必要なもの・サービスを必要に応じて提供し、社会の様々なニーズにきめ細やかに対応でき、年齢、性別、地域、言語といった違いを乗り越え、生き活きと快適に暮らせる社会